

教育的価値	具体の項目	教育課程
2 【かかわる】	<p>③【価値ある自分】 どのような状況においても、自分の存在を認め、必要とされる存在であることを認識する。</p>	総合的な学習の時間等
<p>【題材】 釜石市復興支援ボランティア及び講演会</p> <p>【対象】 第3学年生徒 男子27名 女子14名 計41名</p> <p>【実践の概要・詳細】</p> <p><はじめに> 本校は発災以来、釜石市での支援活動を継続してきた。年に一度の活動ではあるが、被災地の現状を目の当たりにすることや、被災地の方々と直接触れ合うことにより、同じ岩手県民として復興への歩みを共にする気持ちを醸成したいと考えている。 今年度は、釜石市で支援活動を続ける団体との交流を通じて、生徒一人ひとりが自分のかけがえのなさに気づき、人としていかに生きるのかを考えさせることをねらいとし、実践を重ねてきた。</p> <p><概要></p> <p>1 釜石市復興支援ボランティア</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実施期日：平成26年10月2日(木) ・対象地域：釜石市片岸町・鶴住居町 ・協力団体：北上市社会福祉協議会 地域福祉課 釜石市社会福祉協議会 生活ご安心センター 社団法人 United Green 釜石東部漁協管内復興市民会議 ・活動内容：菜の花プロジェクト支援・講話聴講・施設等見学 <p>2 講演会</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実施期日：平成26年11月7日(金) ・講師：山田周生氏(社団法人 United Green 代表理事) ・演題：「天ぷら油で地球一周」 ・対象者：本校生徒・教職員・PTA会員・地域住民 <p><詳細></p> <p>1 釜石市復興支援ボランティア</p> <p>(1) 菜の花プロジェクト支援 津波により壊滅状態となった草花の中で、海水に強い菜の花だけは咲き続け、被災者の心を癒してくれた。またこの花は、菜種油を採取できるクリーンエネルギーの素として活用できる植物でもある。このことから、釜石市では菜の花を育てる事業が進められている。その支援活動として、群生地での草取り作業を行った。</p> <p>(2) 講話聴講・施設等見学 釜石市社会福祉協議会の矢浦一衛氏より、発災当時の状況から現在までの歩みについて、画像やデータに基づいた説明を受けた。その後、鶴住居地区防災センター跡地に出向き、当時の被災の様子を語っていただいた。続いて、2年前の3年生が清掃活動を行った片岸海岸の現状を見学し、美しさを保ち続ける浜の様子を記憶に刻んだ。</p> <p>2 講演会 菜の花プロジェクト事業を展開する United Green 代表理事の山田周生氏を講師に、氏のこれまでの人生と、釜石市での復興支援に携わることになったきっかけ、さらには現在の思いなどをお話いただいた。廃油を燃料に世界を走破したバイオディーゼルカーも、当日は見学させてもらった。</p>		



【授業の展開】

(1) 事前の学習（道徳・学活）

ア 学習のねらい

生徒は自分がかげがえのない存在であることを日常では意識しにくい。そこで、誰かのために出来ることを想起させながら、自分が意味ある存在であることを再認識させる。

イ 具体的な学習活動

事前学習の一環として、北上市社会福祉協議会の佐藤剛氏を講師としてお招きして、ボランティア活動に向けての学習会を行った。会の中では、釜石市の現状を教えていただくとともに、ボランティアに臨む心構えについても説いていただいた。

学習会で学んだことを踏まえながら、今の自分に何が出来るのか、また、どのような態度で参加するべきかを考えさせ、当日に向かう姿勢づくりを進めた。

(2) 当日の活動（総合的な学習の時間）

ア 学習のねらい

体験を通じて、事業に携わる人や地域の人など、様々な人との交流を通じて、かかわり合うことの大切さを感得させる。

イ 具体的な学習活動

菜の花プロジェクトを主導する山田周生氏や柏崎龍太郎氏の指導をいただきながら、国道沿いの菜の花の群生地で雑草を除去した。付近では道路工事が進められており、作業員の方が、生徒が安全に活動できるように車両の誘導をしてくださるなど、温かい交流も体験できた。



(3) 事後の活動（総合的な学習の時間）

ア 学習のねらい

今回の体験を契機に、自分達が日頃から支え合いながら生きているものであり、ゆえに、お互いがかけがえのない存在であることに気づかせる。

イ 具体的な学習活動

文化祭に向けて個人新聞作成を行いながら、活動で得たものだけでなく、日常では意識されにくい自分や周囲の姿に目を向け、改めてお互いの存在意義について考えさせた。

(4) 講演会（学校行事）

ア 学習のねらい

菜の花プロジェクトで出会った山田氏に、その起伏に富んだ人生を語っていただく中で、人としていかに生きるかを見つめさせる。

イ 具体的な学習活動

90分の講演会と、質問コーナー、さらにはバイオディーゼルカーの実走体験で構成。事後に感想を書かせながら、これからの自分のありようについて思いを巡らせた。

【生徒の感想】

◇花壇をきれいにすることが出来て達成感を覚えた◆学んだのは、受身にならないこと、どんなことにも最善を尽くすこと、自分から前に出る心を持つこと◇小さなボランティアだけど少しでも貢献できた◆「助けられる人」から「助ける人」になりたい◇自分に何が出来るのかを考えていきたい

【まとめ】

今年度のプログラムを展開する中で、3つの教育的価値に加え、「つなぐ」というキーワードがしばしば浮かんできた。窓口となってコーディネートしていただいている北上市の佐藤氏は、本校の学区内の出身である。菜の花プロジェクトの活動場所は、2年前に清掃活動を行った片岸町にあった。山田氏との出会いは、1ヶ月後の講演会へと発展した。世界を数十周してきた山田氏は、たまたま岩手にいて震災を体験したことから釜石市に根をおろし、支援活動を続けている。

かかわりはつながりを生み、人と人との輪を広げていく。そんな絵柄が湧いてくるような今回のプログラムであった。体験の風化が早くも危惧されている今、私達の使命となっていくのは、震災体験をつなぎ、支援活動をつなぎ、そして人と人とをつないでいくことではないだろうか。